Victor
"HIS MASTER'S VOICE"

WeLL CALL システムソフト

ML-S2200　学習者用アプリケーション　操作マニュアル

目次

「CALL システムソフト 学習者用アプリケーション」は、CALL システムを利用して授業を行うときに学習者が使用するアプリケーションです。この操作マニュアルでは、学習者用アプリケーションの操作方法を説明しています。

Ver 3.00

目次

1. 授業の開始と終了

CALLシステムで学習をはじめる前に、学習者はCALLシステムに*ログイン*する必要があります。
この章では、CALLシステムにログインして学習用の画面を表示するまでの手順を説明しています。

授業の開始(ログイン)

CALL システムで学習を始める前に、学習者はシステムにログインする必要があります。学習者のログイン方法には次のようにいくつかのパターンがあり、システムの設定によって方法が異なります。また、教員の操作によってはログイン画面が表示されないこともあります。授業開始時の操作については教員の指示に従ってください。

出席カード
あなたの名前は？
言語: 日本語 English
OK

(A)名前を入力してログイン

ログイン画面(出席カード)に名前を入力し、[OK]をクリックすると授業に参加できます。(操作画面を英語で表示したい場合は[English]オプションを選んでから[OK]をクリックしてください。)

出席カード
学籍番号:
学習者名:
言語: 日本語 English
OK

(B)学籍番号と名前を入力してログイン

ログイン画面(出席カード)に学籍番号と名前を入力し、[OK]をクリックすると授業に参加できます。(操作画面を英語で表示したい場合は[English]オプションを選んでから[OK]をクリックしてください。)

ログイン
学習者名:
パスワード:
言語: 日本語 English
パスワードの変更 ログイン

ログイン
学習者名: 坂口
現在のパスワード: ***
新しいパスワード:
パスワードの確認:
ログイン 終了

(C)名前とパスワードを入力してログイン

[学習者名]のところに、登録されている自分の名前を入力してください。次に**[パスワード]**のところに、登録されている自分のパスワードを入力して、**[ログイン]**をクリックします。
ログインの学習者名とパスワードは、あらかじめデータベースに登録されているものと一致している必要があります。また、パスワードは英字の大文字・小文字を区別します。教員の指示に従って正しく入力してください。(操作画面を英語で表示したい場合は[English]オプションを選んでから[OK]をクリックしてください。)

メモ **パスワードの変更**

ログイン画面の[パスワードの変更]ボタンをクリックします。[学習者名]のところに自分の名前を入力し、[現在のパスワード]のところに変更する前のパスワードを入力してください。次に、[新しいパスワード]のところに新しいパスワードを入力して[OK]ボタンをクリックします。

メモ **パスワードを忘れた場合**

パスワードを忘れた場合は、教員にパスワードの解除を依頼してください。パスワードの再設定が必要な場合は、授業終了後に教員に依頼してください。

次のページにつづきます

出席カード

あなたの名前は？

山田太郎

言語: 日本語 English

OK

(D)名前やパスワードを入力せずにログイン

すでに学習者名がログイン画面(出席カード)に表示されています。[OK]をクリックすると、この学習者名で授業に参加します。(操作画面を英語で表示したい場合は[English]オプションを選んでから[OK]をクリックしてください。)

* この画面で名前を変更することはできません。

※学校内ネットワークと連動してCALL 教室を運用している場合、出席カードに表示される学習者名は、Windows XP(またはWindows 2000)にログオンしたユーザーの[表示名] です。別の学習者名で使用したい場合は一度 Windows をログオフし、再度別のユーザーでログオンする必要があります。Windows のログオフはキーボードの[Ctrl]と[Alt]を押しながら[Delete]を押します。「ログオフ」を選択するとWindows をログオフできます。ログオンするには、ユーザー名とパスワードを入力し[OK] をクリックします。

(E)何も表示しない （オートログイン)

教員の操作によって、学習者用のログイン画面を表示せずに授業画面が表示されます。

メモ 一度授業にログインした学習者とその座席番号を記憶する「座席固定モード」を設定している授業では、初回のログインでのみ学習者名を入力します。次回の授業からは同じ学習者名が自動的に出席カードに表示され、学習者が任意に名前を変更することはできません。2 回目以降のログイン時に学習者名を変更する場合は、教員側からの操作が必要です。

早退確認

出席カード

出席を確認します。

OK

授業の終了前に、教員が学習者の着席を確認する機能です。教員がこの機能を開始すると、学習者の画面上に早退者確認用の「出席カード」が表示されます。このとき、学習者は[OK]をクリックしてください。

([OK]をクリックしないと学習者が座席にいないものとみなされ、「早退」の記録が教員側に残ります。)

授業の終了

授業の終了時は、教員が学習者アプリケーションを終了させます。学習者は授業終了のための操作をする必要はありません。

2. 操作画面の概要

学習者用アプリケーションでは**ナビゲーター**と**ソフトウェアレコーダー**の２つの操作画面が表示され、学習者はそれらを併用して学習をすすめます。この章では、２つの操作画面の概要を説明します。

ソフトウェアレコーダー

映像教材や音声教材を使った学習の中心となる画面です。

映像教材選択時の画面例



ステータス表示と最小化 ➔ P.10,21
現在の状態をマークで知らせます。また、最小化ボタンでソフトウェアレコーダーを最小化します。

授業教材・自習教材 ➔ P.12,23
使用する教材を選びます。(「自習教材」は、自習モードのときに使用できます。)

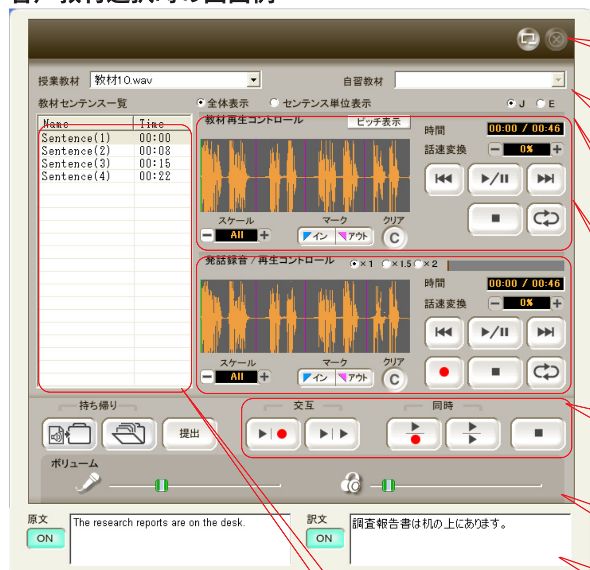
表示言語切り替え ➔ P.9
操作画面を日本語(J)または英語(E)に切り替えます。

教材再生コントロール ➔ P.14
選択された教材を再生します。

発話録音 / 再生コントロール ➔ P.15,16
自分の発音を録音したり、確認したりします。

ボリュームの調整 ➔ P.18,19,36
ヘッドホンの音量やマイクの音量を調整します。(オーディオユニットを使用している場合は、この部分の操作はできません。音量はオーディオユニットで調整してください。)

音声教材選択時の画面例



ステータス表示と最小化 ➔ P.10,21

授業教材・自習教材 ➔ P.12,23

表示言語切り替え ➔ P.9

教材再生コントロール ➔ P.12
選択された教材を再生したり、音の波形を表示します。

発話録音 / 再生コントロール ➔ P.15,16
自分の発音を録音したり、確認したりします。

ボリュームの調整 ➔ P.18,36

原文・訳文表示 ➔ P.13
音声教材に対訳が含まれている場合に表示されます。教員の設定によっては、表示されないこともあります。

教材センテンス一覧 ➔ P.12
音声教材に含まれているセンテンス（区切り）をリスト表示します。

持ち帰り ➔ P.19,29
配布された教材をコピーして持ち帰るときに使います。

提出 ➔ P.19,29
録音した自分の発音を教員に提出するときに使います。

ナビゲーター

転送された文書ファイル教材などを選択したり閲覧する画面です。また、教員の質問にボタンで答える・教員を呼ぶなど、教員との通信にも利用します。



最小化ボタン → P.10
ナビゲーターを最小化します。

学習者情報の表示 → P.25
現在の授業と学習者の情報が表示されています。

コールボタン → P.25
教員に呼びかけます。

ステータス表示 → P.25
操作ロック時と遅刻時にマークが表示されます。

登録アプリケーション一覧
使用できるアプリケーションのショートカットアイコンが登録されています。クリックするとアプリケーションが起動します。
(教員の設定により、使用できない場合もあります。)

PC 教材フォルダ → P.28
配布された PC 教材ファイルを見ることができます。

オプション → P.28,29
サーバーの配布フォルダ内の教材をダウンロードしたり、課題ファイルを提出するときに使います。

回収教材フォルダ
課題ファイルなどをこのフォルダ内に置くと、教員が一斉回収を実施したときに回収されます。

レスポンスボタン → P.26
教員の質問にボタンで答えます。

メッセージ表示エリア → P.25
教員から送信されたメッセージが表示されます。

画面の日本語 / 英語表示切り替え

学習者用画面(ソフトウェアレコーダーとナビゲーター)の表示を英語(または日本語)に切り替えることができます。切り替えは、学習者のログイン画面、またはソフトウェアレコーダー右上部分の切り替えボタンで行います。

ログイン画面(日本語)

出席カード
あなたの名前は？
言語: 日本語 English
OK

ログイン画面(英語)

Attendance Card
Your name
Language: Japanese English
OK

【English】を選択

【Japanese】を選択

ログイン

ログイン

【E】を選択

【J】を選択

ソフトウェアレコーダー(日本語)

ソフトウェアレコーダー(英語)

ナビゲーター(日本語)

ナビゲーター(英語)

画面の最小化

教員の設定によって、学習者用画面(ナビゲーターとソフトウェアレコーダー)を最小化した状態で授業を開始することができます。このようにしておくと、画面全体を使うことができます。途中、ソフトウェアレコーダーやナビゲーターを使用する場合は、画面下のタスクバーからナビゲーターやソフトウェアレコーダーを最大化表示させることができます。再び最小化させる場合はそれぞれの最小化ボタンで最小化してください。

通常の授業開始画面
(ナビゲーターとソフトウェアレコーダーを表示した状態で授業が開始します)



最小化して授業開始
(授業開始時は、ナビゲーターとソフトウェアレコーダーが最小化されています)



タスクバーから、ソフトウェアレコーダーとナビゲーターをそれぞれ表示させることができます。

3. ソフトウェアレコーダーの操作

この章では、授業中にソフトウェアレコーダーで行う操作について説明しています。ソフトウェアレコーダーは音声教材や映像教材を使用した学習の中心となる画面です。



授業教材を選択する

ソフトウェアレコーダーでは、まずはじめに授業教材(授業中に使用する教材)を選択します。

授業教材 音声教材(1)

このリストをクリックすると使用できる教材が表示されます。教材をクリックして選択してください。

メモ 教材には「音声教材」と「映像教材」があります。音声教材はWAVE形式のファイルで、教材名に「wav」という拡張子が付いています。映像教材はMPEG形式、AVI形式、ASF形式、WMV形式のいずれかで、教材名に「m2t」「mpg」「avi」「asf」「wmv」のいずれかの拡張子が付いています。



音声教材を聞く

選択した音声教材は、***教材再生コントロール***部分を操作して、速度を落としたり、繰り返したりして聞くことができます。



再生をはじめます。
再生中にクリックすると、一時停止します。



再生を停止します。



再生を繰り返します。繰り返しを解除するときは、もう一度クリックしてください。
センテンス単位表示のときは、表示されているセンテンスを繰り返して再生します。マーク設定がされている場合は、インとアウトの間を繰り返して再生します。
(**センテンス単位表示**、**マーク設定**については、次のページの説明を参照してください。)



センテンスを１つ戻します。



センテンスを１つ送ります。

メモ **センテンスとは**
音声教材の内容がいくつかに区切られている場合があります。この区切りを***センテンス***といいます。教材に含まれているセンテンスは「教材センテンス一覧」に表示されます。
一覧をクリックしてセンテンスを選択し、そこから教材の再生をはじめることもできます。

時間 02:10/05:20

教材全体の時間と再生経過時間を表示しています。
(経過した分：秒／全体の分：秒)

話速変換 − -30% ＋

再生スピードを調整します。通常は０%です。早くする場合は ＋ をクリック、遅くする場合は − をクリックします。-50%から＋50%まで10%間隔で設定できます。
(教員の設定によっては使用できないことがあります。)



波形表示の設定について

波形は、音声教材を使用した場合に表示されます。波の上下で音声の動き(強弱)をあらわしています。再生をはじめると再生位置を示す線が移動します。再生位置は波形表示を直接クリックして変更することもできます。
また、必要に応じて波形の表示を調整することもできます。



全体表示のときは音声教材全体の波形を表示し、センテンスの区切りを紫色の線で表示します。
センテンス単位表示のときは、再生中のセンテンスまたは選択されたセンテンスの波形を表示します。（この設定は、発話録音 / 再生コントロールの波形表示と連動しています。）

メモ オーディオユニット(オプション)の話速変換機能を使用すると、ヘッドホンから聞こえる音声と、波形表示に示される現在の再生位置がずれることがあります。

スケール － 30sec ＋

波形表示を拡大・縮小します。
全体表示の場合は［ALL］と表示され、５秒間ごとの長さで変更することができます。[5 sec] の場合は、波形全体が５秒間であることを意味します。拡大する場合は ＋ をクリック、縮小する場合は － をクリックします。（この設定は、発話録音 / 再生コントロールの波形表示と連動しています。）

メモ 再生中に波形表示の拡大・縮小やセンテンスの切替えを頻繁に行うと、音声が一瞬停止する場合がありますが、Windows の制限によるものであり、故障ではありません。

マーク イン アウト

音声教材の一部分だけを再生したい場合に使います。
ファイルの再生中、または波形を直接クリックして再生位置を動かし、開始したい位置で イン を、終了したい位置で アウト をクリックします。波形表示のところにインとアウトを示すマークが表示されます。(波形上でマウスを左クリックすると、その位置にインとアウトをそれぞれ設定することもできます。設定後にマークの位置を変えるには、波形上で右クリックするか、波形表示上部のマーク や を任意の位置までドラッグします。)
この状態で再生すると、インとアウトの間だけが再生されます。
さらに、繰り返しを選択している場合にはインとアウトの間が繰り返し再生されます。

クリア C

上記のイン・アウトの設定を解除します。

原文と訳文の表示について

原文・訳文の表示エリアは、音声教材の内容や注釈などの文字情報を表示する部分です。教員の設定によっては表示されないこともあります。表示されている場合は ON をクリックすることによって文字を隠したり表示したりすることができます。



映像教材を見る

選択した映像教材は、***教材再生コントロール***部分を操作して再生します。



再生をはじめます。
再生中にクリックすると、一時停止します。



再生を停止します。



再生を繰り返します。繰り返しを解除するときは、もう一度クリックしてください。

時間 02:10/05:20

教材全体の時間と再生経過時間を表示しています。
（経過した分：秒／全体の分：秒）

教材

再生スライダー（教材）は映像教材の再生位置を示しています。再生位置はスライダー上を直接クリックしたり、ポインターをマウスでドラッグしたりして任意の場所にスキップさせることができます。





自分の声を録音する

自分の声を録音する場合は、***発話録音 / 再生コントロール***部分を操作します。
（教材が選択されていない場合は録音できません。）

×1 ×1.5 ×2 **録音時間の設定**

[x1] 教材の長さと同じ時間録音します。
[x1.5] 教材より 1.5 倍長く録音します。
[x2] 教材より 2 倍長く録音します。



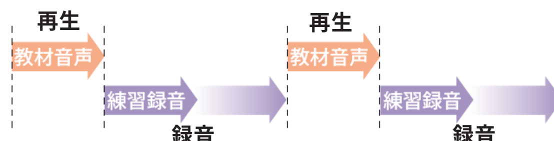
通常録音

録音をはじめます。
音声教材を表示している場合は、選択しているセンテンスのみ録音を行います。(録音時間設定により、録音時間が延長されます。)



交互録音

教材の再生と自分の声の録音を交互に行います。
教材の音声を聞いてから録音を行う場合 (リピート練習など) に使います。

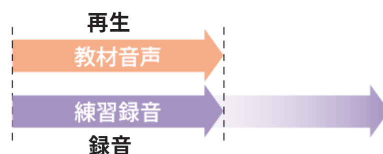


音声教材の場合は、センテンスごとに再生と録音を交互に行います。映像教材の場合はボタンをクリックするごとに再生と録音を交互に行います。教材の音は録音されません。
(録音時間の設定により、録音時間が延長されます。)



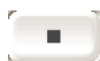
同時録音

教材の再生と自分の声の録音を同時に行います。
教材の音声を聞きながら録音を行う場合 (シャドーイングなど) に使います。教材の音は録音されません。
(録音時間の設定により、録音時間が延長されます。)



録音インジケーター

録音中に､マイクの入力レベルに合わせて強弱を表示します。



録音を停止します。





録音した音声を再生(確認)する

録音した音声を再生する場合は、***発話録音 / 再生コントロール***部分を操作します。



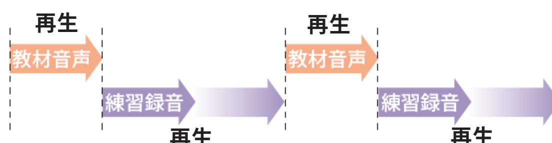
通常再生

録音した音声の再生をはじめます。
再生中にクリックすると、一時停止します。



交互再生

教材の再生と録音した音声の再生を交互に行います。
教材の音声と録音した音声を交互に聞き比べる場合に使います。

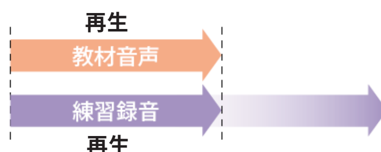


音声教材の場合は、センテンスごとに音声の再生と録音した音声の再生を交互に行います。映像教材の場合はボタンをクリックするごとにの映像の再生と録音した音声の再生を交互に行います。
(録音時間の設定により、録音した音声の再生時間が延長されます。)



同時再生

教材の再生と録音した音声の再生を同時に行います。
教材の音声と録音した音声を重ねて聞き比べる場合に使います。(録音時間の設定により、録音した音声の再生時間が延長されます。)





録音した音声の再生を繰り返します。繰り返しを解除するときは、もう一度クリックしてください。
音声教材センテンス単位表示のときは、表示されているセンテンスに対応した録音音声を繰り返して再生します。
マーク設定がされている場合は、インとアウトの間を繰り返して再生します。



再生を停止します。



センテンスを１つ戻します。



センテンスを１つ送ります。

時間 02:10/05:20

録音音声全体の時間と再生経過時間を表示しています。
(経過した分：秒／全体の分：秒)

発話

再生スライダー(発話)は、録音音声の再生位置を示しています。再生位置はスライダー上を直接クリックしたり、ポインターをマウスでドラッグしたりして任意の場所にスキップさせることができます。(映像教材を使用した場合のみ表示されます。)

話速変換 − −30% ＋

音声教材の再生スピードを調整します。通常は０%です。早くする場合は ＋ をクリック、遅くする場合は − をクリックします。-50%から＋50%まで10%間隔で設定できます。
(教員の設定によっては使用できないことがあります。)



波形表示の設定について

波形は、音声教材を使用した場合に表示されます。波の上下で音声の動き(強弱)をあらわしています。再生をはじめると再生位置を示す線が移動します。再生位置は波形表示を直接クリックして変更することもできます。
また、必要に応じて波形の表示を調整することもできます。

全体表示　センテンス単位表示

全体表示のときは音声教材全体の波形を表示し、センテンスの区切りを紫色の線で表示します。
センテンス単位表示のときは、再生中のセンテンスまたは選択されたセンテンスに対応した録音音声の波形を表示します。
(この設定は、教材再生コントロールの波形表示と連動しています。)

スケール − 30sec ＋

波形表示を拡大・縮小します。
全体表示の場合は [ALL] と表示され、５秒間ごとの長さで変更することができます。[５sec]の場合は、波形全体が５秒間であることを意味します。拡大する場合は ＋ をクリック、縮小する場合は − をクリックします。(この設定は、教材再生コントロールの波形表示と連動しています。)

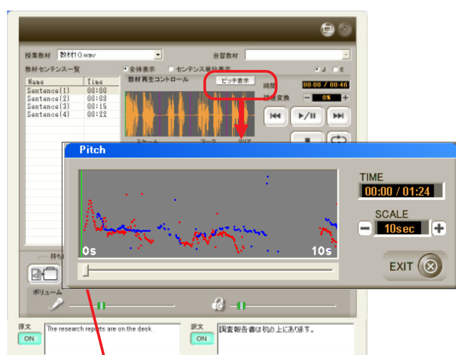
メモ　再生中に波形表示の拡大・縮小やセンテンスの切替えを頻繁に行うと、音声が一瞬停止する場合がありますが、Windows の制限によるものであり、故障ではありません。

マーク イン アウト

教材の一部分だけを再生したい場合に使います。
ファイルの再生中、または波形を直接クリックして再生位置を動かし、開始したい位置で イン を、終了したい位置で アウト をクリックします。波形表示のところにインとアウトを示すマークが表示されます。(波形上でマウスを左クリックすると、その位置にインとアウトをそれぞれ設定することもできます。設定後にマークの位置を変えるには、波形上で右クリックするか、波形表示上部のマーク や を任意の位置までドラッグします。)
この状態で再生すると、インとアウトの間だけが再生されます。
さらに、繰り返しを選択している場合にはインとアウトの間が繰り返し再生されます。

クリア C

上記のイン・アウトの設定を解除します。



スライダーバーをドラッグすると表示位置を移動させることができます。

ピッチ表示について

[ピッチ表示]ボタンをクリックすると、教材音声と練習録音の音声のピッチを重ねて表示します。赤が教材音声、青が練習録音の音声のピッチです。イントネーションの比較をする場合に利用します。波形上で「イン」と「アウト」を設定してから[ピッチ表示]ボタンをクリックすると、選択された部分だけのピッチを表示します。

ピッチ表示画面上で「SCALE」の[-][+]をクリックすると、表示幅を5秒単位で調整できます。画面を閉じるには[EXIT]をクリックしてください。

オーディオユニットの操作

これはオプションの機能です

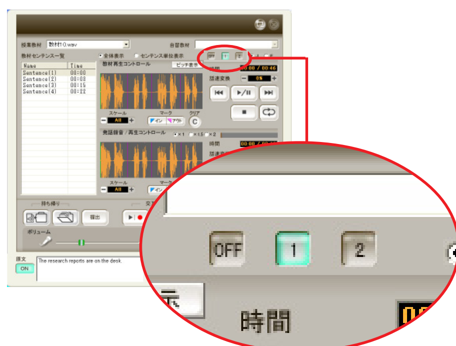


[MIC]
録音や対話時の声の入力音量を調整します。
[HEAD PHONE]
ヘッドホンから聞こえる音量を調節します。
[SPEED CONTROL]
このつまみは使用しません。（授業中にゆっくり再生機能を調整する場合は、ソフトウェアレコーダーで行ないます。）

オーディオユニットには、次の２つの用途があります。

マイクとヘッドホンのボリューム調整

マイクとヘッドホンのボリュームは、[MIC][HEAD PHONE]のつまみをそれぞれ左右に回して調整します。



[OFF]ゆっくり再生機能をOFFにします。
[1]ややゆっくりになります。
[2]さらにゆっくりになります。

ゆっくり再生機能（話速変換機能）の調整

ゆっくり再生機能を使用する場合には、ソフトウェアレコーダーの話速変換制御部分を操作します。ゆっくり再生機能を使用すると、ヘッドホンから聞こえる音声が特殊処理されてゆっくりと聞こえます。（ゆっくり再生機能は、教員の設定によって使用できない場合や、学習者側で速度の変更ができないことがあります。）

オーディオユニットの詳細については、「ML-A200 取扱説明書」を参照してください。



マイクとヘッドホンのボリューム調整

オーディオユニットを使用しないシステムでは、画面上のつまみを左右にドラッグしてボリュームの調節を行います。
右に動かすとボリュームが大きく、左に動かすとボリュームが小さくなります。

マイクのボリュームは、録音や対話時の声の入力音量を調節します。ヘッドホンのボリュームは、教材を聞いたりグループ練習のときにヘッドホンから聞こえる音量を調節します。

メモ オーディオユニット(オプション)を使用している場合は、ボリューム調整のつまみは画面上に表示されません。



録音した音声を教員に提出する

録音が終了した音声を教員に提出するには 提出 をクリックします。

授業教材を持ち帰る

授業で使用した教材や録音した音声、教員が学習者に公開している教材をコピーして持ち帰ることができます。

学習者が教材ファイルをコピーして持ち帰る場合

1. をクリックします。(現在選択されている教材ファイルが持ち帰りフォルダにコピーされます。練習録音がされている場合は、自分の録音音声ファイルもコピーされます。)

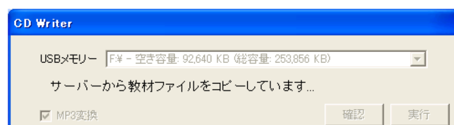
2. をクリックします。
持ち帰ることができる教材ファイルが表示されますので、USB メモリーや CD-R などのメディアにコピーしてください。

メモ 一度 をクリックして持ち帰る教材を収集したあとに同じ教材で練習録音をし直した場合は、もう一度 をクリックすると後で録音した音声ファイルに更新することができます。(ファイルの上書きするメッセージが表示されますので、更新する場合は［ＯＫ］をクリックしてください。)

メモ 持ち帰るファイルの中に「InstallSWR.msi」というファイルが含まれていることがありますが、このファイルを持ち帰り、別のパソコンで実行すると自習用ソフトウェアレコーダーをインストールすることができます。これを利用して教室外でもソフトウェアレコーダーで学習することができます。（システムの設定によっては「InstallSWR.msi」を持ち帰れないことがあります。）自習時のソフトウェアレコーダーの操作については、「6．自習を行う」を参照してください。

教員が一斉に教材をコピーする場合

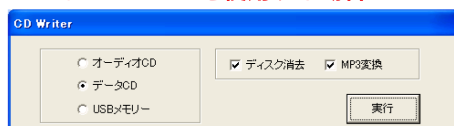
教材書き込み中(USB メモリーの例)



教員の操作で教材ファイルを学習者全員に一斉にコピーする場合は、教員の指示に従って CD-R、CD-RW または USB メモリを学習者用パソコンにセットしてください。(教員の操作で自動的に教材の書き込みがスタートします。)

教員の設定によっては、コピーするメディアの種類やファイルの形式を学習者が選べる場合があります。この場合は学習者自身が選択を行なってから教材の書き込みを行います。

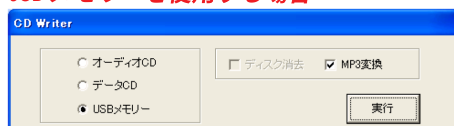
CD-R または CD-RW を使用する場合



CD-R や CD-RW にコピーする場合は、学習者用パソコンのディスクドライブにディスクを挿入します。画面で書き込み形式を指定して[実行]をクリックすると、教材ファイルの書き込みを開始します。

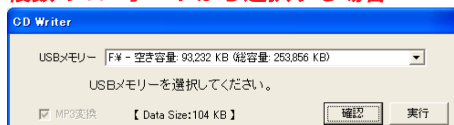
オーディオ CD	音声教材ファイルだけを音楽 CD 形式で書き込みます。書き込んだCD-R/RWは、一般の音楽CDと同様にCDプレーヤーやパソコンの再生アプリケーションで再生することができます。CD-RWに書き込む場合は、すでに書き込まれているファイルはすべて削除されます(教材ファイルの追記はできません。)
データ CD	音声教材ファイルや、教員から配布された資料ファイル(Word や Excel などのアプリケーションで使用するファイルなど)を書き込みます。書き込んだ教材ファイルは、パソコンの各種アプリケーションを利用して閲覧します。(通常の CD プレーヤーは利用できません。) ＊ 授業中に閲覧した映像ファイルは、システムの設定によって持ち帰れないことがあります。
ディスク消去	ディスク消去にチェックをしておくと、CD-RWにもともと記録されていたファイルをすべて削除してから教材ファイルの書き込みを行います。([データ CD]を選択している場合のみ指定することができます。) チェックをせずに CD-RW に書き込むと、教材ファイルが追記されます。
MP3 変換	音声教材ファイルをMP3形式に変換して書き込みます。([データCD]または[USBメモリー]を選択している場合のみ指定することができます。)

USB メモリーを使用する場合



USB メモリーにコピーする場合は、学習者用パソコンの USB ポートに USB メモリーを挿入します。上記と同じ要領で、「MP3 変換」の有無を指定し、[実行] をクリックします。

複数の USB ポートから選択する場合



USB メモリーを 2 個以上挿入している場合やマルチカードリーダーを使用した場合は、どのメディアにコピーするかを選択する必要があります。プルダウンリストから適切なポートを選択し、[確認] ボタンをクリックしてポートを認識させます。
教材の書き込みを開始するには [実行] をクリックしてください。(教材ファイルは、USB メモリーの記憶領域に直接書き込まれます。フォルダ分けなどは行われません。)

メモ USB マスストレージクラス対応のデジタルオーディオプレーヤー(特別なドライバを必要とせずにリムーバブルディスクとして認識できるもの)を USB メモリーの代わりに使用することもできます。



会話練習(ペア・グループレッスン)

(教員が設定します)

ステータス表示に　（会話練習マーク）が表示されます。会話練習とは、他の学習者とペアやグループを作って対話しながら練習をすすめることです。会話練習中は同じグループの学習者の発話をグループ内の人が聞くことができます。ステータス表示には、同じグループの学習者の名前が表示されています。(教員の設定によっては、名前が表示されない場合もあります。)

メモ　会話練習中はマイクとヘッドホンのボリューム調整以外の操作はできません。

モデル

(教員が設定します)

ステータス表示に　（モデルマーク）が表示されます。モデルとは、自分の発話が他の学習者全員に聞こえる状態のことです。

メモ　教員の設定により、モデル中に教材を再生することができます。この場合は教材音声と自分の発話が他の学習者全員に聞こえます。

モニター

(教員が設定します)

ステータス表示に　（モニターマーク）が表示されます。モニターとは、教員が設定した教材の音声を聞いたり、他の学習者がモデルのときに、その発話を聞いている状態です。

メモ　モニター中はマイクとヘッドホンのボリューム調整以外の操作はできません。



コール / インカム

(教員が設定します)

コールの場合、ステータス表示に (コールマーク)が表示されます。インカムの場合、ステータス表示に (インカムマーク)が表示されます。

コールとは、教員が学習者に対して話している状態です。教員に学習者の発話は聞こえません。
インカムとは、教員と学習者が対話できる状態です。学習者の発話が教員に聞こえます。

メモ コール / インカム中はマイクとヘッドホンのボリューム調整以外の操作はできません。

メモ オーディオユニット(オプション)を使用している場合は、会話練習、モデル、モニターまたはコール / インカム中にこの画面でヘッドホンとマイクのボリュームを調整することはできません。

会話練習時にカメラの映像を表示



USB カメラを使用した会話練習

USB カメラを設置したシステムでは、会話練習時や教員と学習者との対話時に USB カメラで相手の顔を撮影して、お互いの操作画面上に表示します。この機能は会話練習や教員との対話開始時に自動的に開始されるので、学習者が制御を行う必要はありません。

メモ 教員の設定によっては、会話練習時に USB カメラの映像が表示されない場合や、教員の顔が学習者に送信されない場合があります。



自習モード

(教員が設定します)

授業中に教員が自習モードを設定した場合は、学習者の画面が自習モードに切り替わります。自習モードのときはステータス表示に （自習モードマーク)が表示されます。

自習モード中は、

授業教材 音声教材(1)

自習教材 音声教材(1)

どちらのリストからでも教材を選択できます。教材を選択したら、授業時と同じようにソフトウェアレコーダーを操作して学習を進めてください。

4. ナビゲーターの操作

この章では、授業中にナビゲーターで行う操作について説明しています。



学習者情報とステータスの表示

学習者情報表示　ナビゲーターの上部には、学習者情報として【座席番号】【名前】【授業名】の情報を表示しています。

ステータス表示　マークで現在の状況を表示します。



【ロック】
このマークが表示されているときは、パソコンの操作はできません。教員の指示を待ってください。



【遅刻】
授業に遅刻してログイン操作を行うと、ナビゲーターに「遅刻」マークが表示されます。このマークが表示されていても通常と同じように学習者用アプリケーションを利用することができます。教員の指示に従って授業に参加してください。(マークは教員の操作で解除されます。)

教員を呼ぶ（コール）

 をクリックすると、教員に呼びかけます。

ボタンが緑色に点灯している状態がコール中の状態です。
教員からの応答が聞こえたら、対話が可能です。
コールを取り消す場合は、もう一度ボタンをクリックしてください。
緑色の点灯が消えます。

メッセージ表示

教員からメッセージが送信された場合、ナビゲーターのメッセージ表示エリアに表示されます。このメッセージに対して、学習者から返信はできません。



質問に答える（レスポンスとアナライザー）

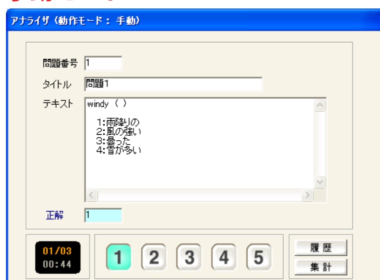
教員からの指示があった場合は、ナビゲーター画面の下部にあるボタン 1～5 （または A～E)をクリックして質問に答えてください。

番号が緑色に点灯している状態が選択している状態です。
違う番号を選択しなおす場合は、新しいボタンをクリックして切り替えてください。選択を取り消す場合はボタンをもう一度クリックして緑色の点灯を消します。

メモ 1～5 または A～E のボタンは、教員の設定によって表示が切り替わります。

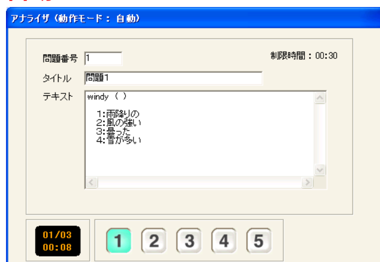
教員の設定により、複数の問題に連続して回答して履歴などを確認することができます。このような場合はレスポンス画面が表示されます。レスポンス画面には次の３種類の動作モードがあります。

手動モード



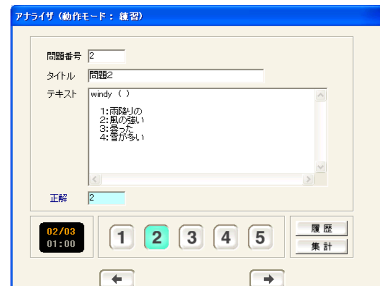
●手動モード
教員がすべての問題に対して回答〆切りと出題の操作を行います。
教員の指示に従ってボタンをクリックして回答します。
回答が〆切られるごとに、[履歴]ボタンや[集計]ボタンでそれまでの回答履歴と全体の統計を確認することができます。

自動モード



●自動モード
あらかじめ設定された時間で回答が〆切られ、次の問題が出題されます。
「制限時間」に表示されている時間内にボタンをクリックして回答しなければなりません。(例えば、「制限時間：02：00」と表示されている場合は、１問に対する制限時間は２分です。　)
経過時間の表示を参考にして制限時間内に回答してください。制限時間になると自動的に次の問題が表示されます。すべての問題が終了すると、[履歴]ボタンや[集計]ボタンで回答履歴と全体の統計を確認することができます。

練習モード



●練習モード
学習者自身のペースで回答を進めることができます。ボタンを押して回答すると自動的に次の問題が表示されます。 ← ボタンや → ボタンをクリックして問題を戻したり送ったりしながら回答をやり直すことも可能です。
教員が終了の操作をすると、[履歴]ボタンや[集計]ボタンでそれまでの回答履歴と全体の統計を確認することができます。

●回答履歴と統計表示

レスポンス画面では、回答履歴と全体の統計、および簡易グラフを表示させることができます。

レスポンスウィンドウ

アナライザ（動作モード：手動）

問題番号 1
タイトル 問題1
テキスト windy（ ）
1:雨降りの
2:風の強い
3:曇った
4:雪が多い
正解 1

01/03 00:44　1 2 3 4 5　履歴　集計

レスポンス履歴

あなたの正解率: 100%　総合順位: 1位

レスポンス	タイトル	正解	正解率	回答	時間	順位
1	問題1	1	50%	1	00:08	1
2	問題2	2	50%	2	00:52	1
3	問題3	C	50%	C	00:54	1

閉じる

学習者自身の回答履歴と関連情報を表示します。

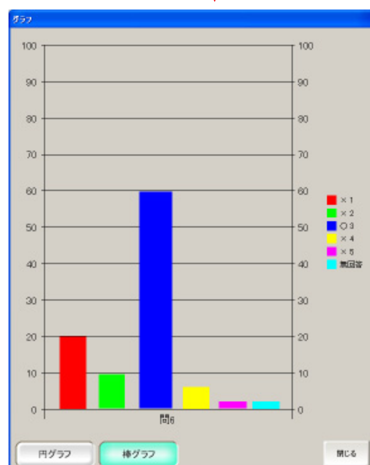
集計

問2 問題2

選択肢	回答者数	回答率	正誤
1	0	0%	×
2	15	75%	○
3	0	0%	×
4	5	25%	×
5	0	0%	×
無回答		0%	×

グラフ　閉じる

問題ごとに回答分布を表示します。

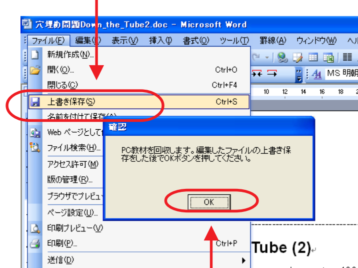


円グラフ・棒グラフを表示します

PC 教材を使用する

PC 教材とは、音声教材・映像教材以外の教材ファイルを指します。Word や Excel、メモ帳といった一般的なアプリケーションで作成された文書が中心です。このような文書を各学習者用パソコンで開き、学習者が答えを記入したあと教員が回収することができます。

上書き保存をしてから



［ＯＫ］をクリック

1. ［PC教材フォルダ］ をクリックします。

2. 使用できる PC 教材が表示されます。使用したい教材をダブルクリックして開きます。(教員の操作によって、自動的に教材が開かれることがあります。)

3. 回答を記入する場合はそのアプリケーションの操作方法に従って編集を行います。アプリケーションの使い方は、それぞれのアプリケーションの操作マニュアルやヘルプを参照してください。
(この「アプリケーション」とは、例えば Microsoft Word や Microsoft Excel など、PC 教材を閲覧するために起動しているソフトウェアを指します。)

4. 教員が回収を開始すると、学習者の画面に「上書き保存をして［ＯＫ］をクリックしてください」というメッセージ画面が表示されます。アプリケーションの操作方法に従って編集内容を<u>上書き保存します</u>。
(例えば、Microsoft Word の場合は、［ファイル］メニューから［上書き保存］を選択します。)

5. 保存後にメッセージ画面の［ＯＫ］をクリックすると、編集済みの教材ファイルが教員に送信され、教員の手元に届きます。

メモ　メッセージ画面の［ＯＫ］ボタンは、上書き保存をした後にクリックしてください。上書き保存の前に［ＯＫ］をクリックすると、編集済み教材ファイルが正しく回収されません。

メモ　PC 教材ファイルの編集をもう一度最初からやり直したい場合は、［オプション］をクリックして表示されるダイアログで［教材ファイル再収集］をクリックしてください。同じ教材ファイル (未編集のもの) をもう一度入手することができます。その後、上記の手順で教材を編集してください。



PC 教材を持ち帰る

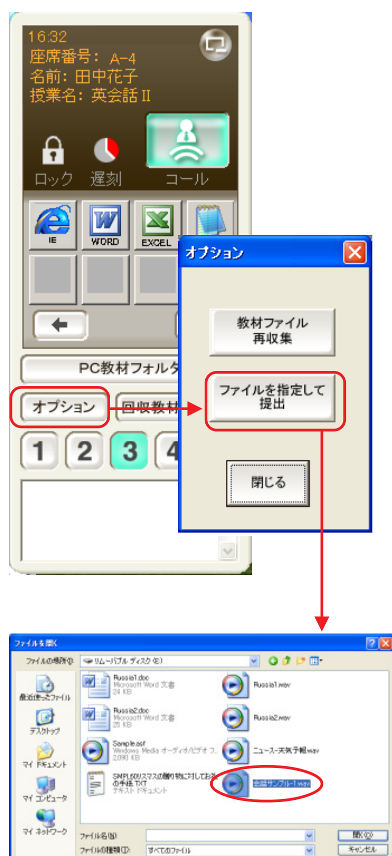
授業中に配布された PC 教材ファイルは学習者がコピーして持ち帰ることができます。

1. PC教材フォルダ をクリックします。
2. 授業中に配布された PC 教材ファイルが表示されます。これらのファイルは、USB メモリーなどにコピーして持ち帰ることができます。

返却ファイルを確認する

以前の授業で回収された PC 教材ファイルを、再度教員から返却された場合は次の方法で確認します。

1. PC教材フォルダ をクリックします。
2. 教員から返却された PC 教材ファイルは[Apli Ret]フォルダに転送されます。このフォルダをダブルクリックすると、返却済みの PC 教材ファイルを確認することができます。



課題を提出する

あらかじめ作成した Word や Excel のファイル、自宅で録音した音声ファイルなどの課題を USB メモリーなどで教室に持参し、学習者から教員に提出することができます。

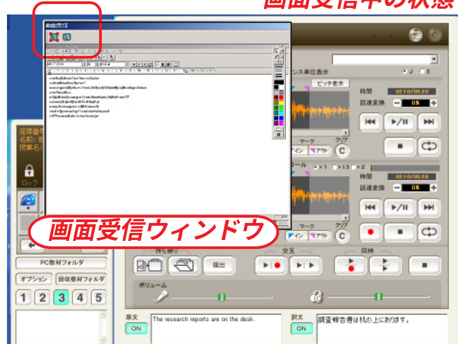
1. オプション をクリックします。
2. [ファイルを指定して提出]をクリックします。「ファイルを開く」ウィンドウが表示されますので、提出するファイルを選択して[開く]をクリックしてください。
3. 提出完了のメッセージが表示されたら、[ＯＫ]をクリックします。「オプション」ウィンドウは、[閉じる]をクリックして終了してください。

5. 画像の受信

この章では、学習者用パソコンで画像を表示するためのウィンドウについて説明します。

画面受信ウィンドウの大きさを調整
(ウィンドウ枠をマウスでドラッグして
もサイズを調整できます)

画面受信中の状態

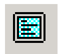




PC 画面を受信

教員が学習者に画面を送信すると、学習者のパソコンでは「画面受信」ウィンドウが表示されます。送信された画面はこのウィンドウに表示されます。学習者は、画面受信ウィンドウの大きさを調整することが可能です。(教員の設定によっては、ウィンドウの大きさを調整できない場合があります。)


[全画面表示 ON/OFF]
画面受信ウィンドウの全画面表示/ウィンドウ表示を切替えます。


[デフォルトサイズに戻す]
画面受信ウィンドウをデフォルトサイズに戻します。デフォルトサイズは教員によってあらかじめ設定されています。

教員が画面の送信を解除すると、画面受信ウィンドウも終了します。

メモ　デスクトップ上に言語バーが表示されていると、画面の送受信時に言語バーが点滅する場合があります。このような場合は、言語バーを画面下のツールバーの位置まで直接ドラッグするか、言語バーを右クリックして「最小化」を選択し、ツールバーの中に格納してください。

MPEG Player



クリックして
サイズを調整

ドラッグしてボ
リューム調整

NC40 Player



ドラッグして
ボリュームを調整

クリックして、ウィンドウ
の位置を調整

映像教材を受信 (MPEG Player/NC40 Player)

教員が学習者に映像教材(DVD やビデオなど)を出力すると、学習者のパソコンでは「MPEG Player」または「NC40 Player」が表示されます。(表示される Player はシステムによって異なります。)
教員から配信される映像教材は、この Player 内に表示されます。このとき学習者は次のような操作が可能です。(教員の設定によって調整できない項目がある場合があります。)

- Player のサイズ調整
- Player の位置調整
- Player のボリューム調整

6. 自習を行う

この章では、授業以外の時間に音声ファイルや映像ファイルを用いてソフトウェアレコーダーで自習を行う方法を説明します。

ソフトウェアレコーダーのインストール これはオプションの機能です

授業で配布された教材ファイルを持ち帰るときに、ファイルの中に「InstallSWR.msi」というファイルが含まれていることがあります。このファイルを持ち帰って別のパソコンで実行すると、パソコンに自習用ソフトウェアレコーダーをインストールすることができます。これを利用すると、教室外でもソフトウェアレコーダーを単独で起動して使用することができます。(システムの設定によっては「InstallSWR.msi」を持ち帰れないことがあります。)

1. 「InstallSWR.msi」ファイルをインストールするパソコンのハードディスクにコピーしてください。

   注意! USBメモリーなどのリムーバブルデバイス内の「InstallSWR.msi」ファイルを直接クリックしてインストールを行うことはおやめください。

2. コピーした「InstallSWR.msi」ファイルをダブルクリックします。インストールが開始されますので、画面の指示に従って作業を進めてください。

3. インストールが完了すると、デスクトップに「Software Recorder」のショートカットアイコンが表示されます。インストールが終了したら、コピーした「InstallSWR.msi」ファイルは削除してもかまいません。

ソフトウェアレコーダーを起動する

ショートカットアイコン





ソフトウェアレコーダー(自習用)

1. 上記の手順でソフトウェアレコーダーがインストールされたパソコンまたは学習者用パソコンのデスクトップにあるソフトウェアレコーダーのショートカットアイコン[Software Recorder]をダブルクリックします。

2. 自習用ソフトウェアレコーダーの画面が表示されます。



ソフトウェアレコーダー（自習用）

音声・映像教材を選択する

授業教材部分の 参照 をクリックして、教材を保存した場所からファイルを選択します。

注意! 使用する教材ファイルがUSB メモリーなどのメディアに保存されている場合、教材ファイルをパソコンのハードディスクにコピーしてから使用してください。USB メモリーなどのメディアに保存されている教材ファイルを直接選択すると、読み込みに時間がかかることがありますので注意してください。

授業教材 音声教材(1)

に選択した教材の名前が表示されます。





音声・映像教材の再生と録音

教材の再生

ソフトウェアレコーダーには、選択した教材の内容が表示されます。選択した教材を聞く場合は***教材再生コントロール***部分を操作します。

教材再生の操作は、授業中の場合と同じです。

操作の詳細については12 ページ「3．ソフトウェアレコーダーの操作　音声教材を聞く」または14 ページ「映像教材を見る」を参照してください。

メモ **センテンス間のポーズ設定について**

自習時に表示される 設定 をクリックすると、センテンス間のポーズを設定することができます。センテンス間のポーズを設定すると、再生中のセンテンスとセンテンスの間に秒数のポーズをおくことができます。0 秒から30 秒までの設定が可能です。





自分の声を録音

ソフトウェアレコーダーには、選択した教材の内容が表示されます。録音した音声を聞く場合は***発話録音 / 再生コントロール***部分を操作します。録音の操作は、授業中の場合と同じです。
操作の詳細については「3．ソフトウェアレコーダーの操作　自分の声を録音する」を参照してください。

メモ 録音した音声ファイルは、選択した教材と同じ場所 (フォルダ) に保存されます。

メモ **センテンス間のポーズ設定について**
自習時に表示される 設定 をクリックすると、センテンス間のポーズを設定することができます。センテンス間のポーズを設定すると、再生・録音の間に秒数のポーズをおくことができます。0 秒から 30 秒までの設定が可能です。



発話音声の選択

音声教材を選択している場合には、発話録音 / 再生コントロール部分に任意のファイルを選択することができます。
発話音声部分の 参照 をクリックして、音声ファイルを選択します。この場合も、通常の練習録音時と同様に発話録音 / 再生コントロール部分のボタンで再生制御することができます。

メモ 発話録音部分で選択できるファイルは、授業教材ですでに選択されている音声ファイルとセンテンス数が同じものに限ります。



マイクとヘッドホンの　ボリューム調整

ボリュームの調節はつまみを左右にドラッグして行います。
右に動かすとボリュームが大きく、左に動かすとボリュームが小さくなります。

マイクのボリュームは、録音のときの声の入力音量を調節します。ヘッドホンのボリュームは、教材を聞くときにヘッドホンから聞こえる音量を調節します。



終了する

自習を終了してソフトウェアレコーダーを閉じる場合は、画面右上の[Ｘ]をクリックしてください。

Text to Speech 機能の利用

この機能を利用するためにはライセンスの購入が必要です。

Text to Speech とは、文字情報(文書ファイルや Web ページのテキスト情報)をソフトウェアが自動的に読み上げて音声を生成する機能です。本システムではオプションソフトウェア「Globalvoice English」を利用して、英文から音声ファイルを作成することができます。

Globalvoice English を起動するには、学習者用パソコンのデスクトップにある「Globalvoice English」アイコンをダブルクリックするか、スタートメニューの「すべてのプログラム」から Globalvoice English を起動してください。操作の詳細については、Globalvoice English のヘルプを参照してください。

索引

アルファベット

A

ALL 13, 17
Apli Ret 29
asf 12
avi 12

C

CAI モード 10
CD に書き込む 20

G

Globalvoice English 36

I

InstallSWR.msi 19, 33

M

m2t 12
ML-A200 18
MP3 変換 20
MPEG Player 31
mpg 12

N

NC 40Player 31

P

PC 画面を受信 31
PC 教材 28, 29
PC 教材フォルダ 28

S

sec 13, 17
Software Recorder 33

T

Text to Speech 36

U

USB カメラ 22
USB メモリー 20

W

wav 12
wmv 12

お客様ご相談センター



0120-2828-17

携帯電話・PHS・FAXなどからのご利用は

電話 (045)450-8950［代表］

FAX (045)450-2275

〒221-8528 横浜市神奈川区守屋町 3-12

ご相談窓口におけるお客様の個人情報は、お問合せへの対応、修理およびその確認に使用し、適切に管理を行い、お客様の同意なく個人情報を第三者に提供または開示することはありません。

ビクターホームページ http://www.victor.co.jp

日本ビクター株式会社

〒192-8620 東京都八王子市石川町2969-2 電話（042）660-7245